

小児 理学療法学

contents

● 序 平賀 篤, 平賀ゆかり, 畠中良太 16

● 動画視聴ページのご案内 12

[総論]

第1章 子どもの定型発達過程と評価

1 発達理論総論	安齋久美子	16
1 発達理論の概要		16
2 成長の評価		17
3 発達スクリーニング検査		17
1) デンバー発達判定法 (DENVER II) 2) 遠城寺式 乳幼児分析的発達検査法 3) 粗大運動能力尺度 (GMFM) 4) 粗大運動能力分類システム (GMFCS)		
2 各機能の定型発達		26
1 神経系	松田雅弘	26
1) 運動の発達理論 2) 神経の発達 3) 姿勢保持, 歩行に至る運動と神経の発達		
2 筋・骨格系	松田雅弘	33
1) 骨・関節の発達について 2) 成人と子どもの筋組成・構造の違いについて 3) 発達におけるモーメントアームの変化と動作		
コラム 筋力低下を見極めよう		41
3 呼吸器系	本田憲胤	43
1) 肺の発生から組織学的構造の発達まで 2) 胎児期～新生児期の呼吸器系の特徴 3) 新生児の呼吸器系の特徴 4) 呼吸パターンの調節 5) 肺の成長 6) 胸郭の成長		
コラム 出生時に呼吸補助を必要とする割合		44
コラム 肺サーファクタントと呼吸窮迫症候群		46
4 循環器系	本田憲胤	47
1) 心臓の発生 2) 健常成人の循環 3) 胎児循環 4) 胎児循環から新生児の循環への移行 5) 新生児循環の特徴 6) 循環器系の生涯発達		

5 栄養・摂食嚥下	高橋泰子	53
1) 乳児嚥下から成人嚥下への移行 2) 食形態の変化 3) 乳幼児期の栄養摂取量 4) 摂食嚥下のメカニズム		
6 精神・知能・コミュニケーション	高橋泰子	58
1) 精神発達の段階 2) 知能の発達 3) コミュニケーションの発達		
3 姿勢と粗大運動	荒井 望	66
1 姿勢反射と運動発達		66
1) 運動発達と姿勢反射・反応 2) 姿勢反射・反応		
2 基本姿勢と粗大運動 		75
1) 粗大運動の発達の枠組み		
3 歩行（走行）の発達 		89
1) 移動運動の発達と姿勢コントロール 2) 歩行の発達 3) 小児歩行の特徴 4) 走行の発達		
4 日常生活活動（ADL）	西方浩一	96
1 食事		96
1) 食事とは 2) 摂食嚥下機能の発達 3) 摂食嚥下機能と姿勢・運動発達		
コラム  摂食嚥下リハビリテーションにおける多職種連携		98
2 更衣		98
1) 更衣とは 2) 更衣の発達 3) 更衣の獲得過程 4) 更衣の準備 5) 更衣活動の支援		
3 排泄		100
1) 排泄とは 2) 排泄機能の発達 3) 排泄行動の獲得過程 4) トイレットトレーニング 5) 排泄の支援		
コラム  多職種で行う排泄へのアプローチ		103
4 書字		103
1) 書字とは 2) 書字活動の機能的要素 3) 書字活動の支援		
コラム  発達障害児のためのサポートツール		105

第2章 小児理学療法概論

1 小児のライフステージからみる理学療法士のかかわり	平賀 篤	107
1 小児理学療法対象者の把握		107
1) 小児理学療法の対象年齢 2) 小児理学療法対象者の低年齢化・高齢化 3) 臨床的特徴の年代による推移 4) 医療・保健・福祉・教育の制度拡充 5) 対象者とそのまわりを取り巻く環境		
コラム  生活と練習		110
2 ライフステージに応じた理学療法の展開		111
2 小児理学療法の問題点	平賀 篤	113
1 小児疾患概念の変遷		113
1) 小児理学療法ならびに対象疾患の歴史 2) 周産期医療と医学的ケアの進歩 3) 疾患特性の変化 4) 新生児・乳児死亡率の低下と障害児（者）の長寿化 5) 小児理学療法対象者の現状		

コラム 理学療法の提供はいつから？	114
コラム 落ち着きのない子は個性？障害？	115
2 小児理学療法提供体制の問題点	116
1) 小児理学療法のゴールの移り変わりと提供施設の問題 2) 施設間連携の重要性 3) 小児理学療法従事者の不足	
3 家族との協業の重要性	119
伊藤慎吾, 平賀 篤	
1 F-wordsを中心とした家族との協業	119
2 F-wordsとは	119
3 模擬症例を用いたFIMおよびF-wordsの活用イメージ	120
[症例] 脳性麻痺児 1) 模擬症例の評価情報の整理 2) 協業における項目ごとの視点 3) F-wordsを使用することでみえた視点 4) 協業結果による変化点のまとめ	
4 子どもの代弁者としての理学療法士の役割	123
5 家族との協業を行う際の注意点	124
1) 昨今の「家族」事情	
4 これから的小児理学療法の基本的な進め方	126
平賀ゆかり, 平賀 篤, 畠中良太	
1 定型発達の過程の整理 	126
1) 小児理学療法の特徴 2) 定型発達の過程	
コラム 理学療法士は理想と現実の調整役	131
2 評価方法の選定とフロー 	131
1) 評価の目的 2) 評価項目の選定 3) 発達検査・知能検査	
3 小児理学療法アプローチの基本的な進め方	136
1) 理学療法介入における配慮 2) 多職種連携で取り組む際の効果的な分業 3) 効率的な発達の促進 4) 遊びを通じて能力の向上を図る 5) 褒める指導を効果的に用いる	
コラム 今後の社会に重要な情報リテラシー	139

[各論]

第3章 疾患・障害別各論

1 周産期・新生児期の異常	142
澤田優子	
1 周産期・新生児期に起こりうる問題	142
1) 用語の定義・分類 2) 周産期・新生児期の異常 3) 周産期・新生児期の家族支援	
2 低出生体重児・ハイリスク新生児の発達支援 	146
1) 低出生体重児の分類とハイリスク新生児の概要 2) NICUでの評価 3) NICUでの発達支援 4) 長期的な発達支援 (NICU退院後のフォローアップ)	
2 中枢神経疾患	155
高橋一史	
1 脳性麻痺の概要	155
1) 疾患・機能障害の概要 2) 分類と評価法 3) 治療と支援	

2	脳性麻痺のケーススタディー	動画	荒井 望	171
[症例1]	症直型両麻痺（成人期）	1) 臨床像 2) 治療目標 3) 治療介入		
[症例2]	アテトーゼ型脳性麻痺児（学童期）	1) 臨床像 2) 治療目標 3) 治療介入		
3	その他の中枢神経疾患		高橋 仁	182
1)	脳血管疾患	2) 小児てんかん		
3	重症心身障害児（者）		田中千恵	186
1	重症心身障害児（者）とは			186
1)	定義	2) 医療的ケアが必要な超重症児（者） 3) 原因 4) 疫学 5) 重症心身障害児施設や制度		
コラム	医療的ケアに関する制度と実態			189
2	臨床上の特徴			189
1)	姿勢・運動障害	2) 呼吸機能障害 3) 摂食嚥下障害と栄養障害 4) コミュニケーション障害		
コラム	子どもは発達する存在である			190
3	重症児（者）に対する理学療法			196
1)	評価	2) 理学療法の実際 3) 生涯にわたる生活支援		
コラム	その子のもつ力を信じる			205
コラム	障害をもっていてもいなくても同じ子育て			210
コラム	家族が求めているもの			211
コラム	住み慣れた地域で暮らす			212
4	神経発達症			214
1	発達性協調運動症（DCD）		信迫悟志	214
1)	障害の概要	2) 疫学 3) 病態生理 4) 運動症状		
2	自閉スペクトラム症（ASD）		信迫悟志	217
1)	障害の概要	2) 疫学 3) 病態生理 4) 運動症状		
3	注意欠如・多動症（ADHD）		信迫悟志	220
1)	障害の概要	2) 疫学 3) 病態生理 4) 運動症状		
4	限局性学習症（SLD）		信迫悟志	223
5	発達性協調運動症（DCD）の評価		畠中良太	224
1)	国際ガイドラインで推奨されている評価	2) 観察による動作分析 3) CO-OPで用いられる評価 4) ASD, ADHDなどに対する感覚統合療法で用いる評価		
6	発達性協調運動症（DCD）の理学療法		畠中良太	230
1)	課題指向型アプローチ	2) 過程指向型アプローチ		
5	染色体異常		有泉静佳	237
1	染色体異常とは			237
1)	染色体, DNA, 遺伝子	2) 染色体異常の概要 3) 染色体異常の原因		
コラム	染色体, DNA, 遺伝子の関係は			237
コラム	きっかけはささいなことで			239

2	ダウントリソミー	239
1)	出生率 2) 身体的な特徴 3) 低緊張 4) 知的障害	
コラム▶	山梨県では	240
コラム▶	人の可能性	241
3	ダウントリソミーの理学療法 	242
1)	評価 2) 乳児期 3) 幼児期 4) 学童期以降	
4	その他の染色体異常	246
6	進行性筋力低下を伴う遺伝性疾病	南 哲 247
1	病態の理解 	247
1)	進行性筋ジストロフィー (PMD) 2) 脊髄性筋萎縮症 (SMA)	
2	デュシェンヌ型筋ジストロフィー (DMD) の理学療法	254
1)	身体機能レベルの障害とその要因 2) 各病期における理学療法の考え方 3) 身体機能障害に対する理学療法 4) リハビリテーションの目的 5) 薬物療法	
3	ケーススタディ 	265
[症例] デュシェンヌ型筋ジストロフィー (DMD) 1) 理学療法介入・支援		
7	整形外科疾患	糸数昌史 270
1	二分脊椎 	270
1)	二分脊椎について 2) 分類 3) 発生率と原因 4) 合併症 5) 麻痺レベルと移動能力の分類 6) 臨床症状 7) 治療と介入	
2	ペルテス病	278
1)	ペルテス病について 2) 発生率と原因 3) 病期の分類 4) 重症度の分類 5) 臨床症状 6) 治療と介入	
3	脊柱側弯症	282
1)	脊柱側弯症について 2) 発生率と原因 3) X線画像所見および姿勢観察から得られる情報 4) 臨床症状 5) 治療と介入	
4	骨形成不全症	287
1)	骨形成不全症について 2) 発生率と原因 3) 重症度の分類 4) 臨床症状 5) 治療と介入	

第4章 ライフプランを見越した理学療法

1	理学療法展開の基本概念	平賀ゆかり 291
1	獲得能力における質の向上	291
1)	能力を獲得する目的 2) 「できる」ことと「している」ことの違い 3) 歩容の解釈 4) 福祉用具・補装具の利用についての検討 5) 動作の日常生活での再現性の検討	
2	長期的予後を見越した展開	294
1)	早期介入による発達促進と二次障害の予防 2) 運動能力のみの早期獲得による弊害 3) 疼痛・変形への配慮 4) リハビリテーション終了時の教育 5) 運動習慣の獲得 6) 医療ケア・リハビリケアの継続的な必要性	

3	自立レベルごとに考慮した展開	297
1)	年齢・性別に対する相応の対応 2) 軽症児の早期リハビリテーション終了と低めのゴール設定	
	コラム 小児疾患から成人診療への移行	298
2	新たな視点からのリハビリテーションの展開	299
1	リハビリテーションロボットを用いた歩行運動学習	299
1)	小児期の歩行障害の特徴 2) ロボット支援による歩行トレーニング 3) 世界における歩行支援型のロボット機器 4) 装着型サイボーグHAL	
2	乗馬療法	301
1)	障害者乗馬 2) 療法としての乗馬 3) 乗馬療法の効果 4) 日本における乗馬療法の可能性	
	コラム 馬の活動でなければ得られない心身への効果	304
3	環境調整	306
1	福祉用具	306
1)	頭部保護帽 2) シャワーチェア 3) 椅子用クッション	
2	補装具	307
1)	義肢（義手・義足） 2) 装具 3) 車椅子 4) 座位保持装置 5) 座位保持椅子・車載用（カーシート） 6) 起立保持具（プロンボード） 7) 歩行器 8) 歩行補助杖（クラッチ）	
	コラム 「学んで」「触れて」補装具・福祉用具を体感してみよう!!	313
3	靴	313
1)	靴が与える影響 2) 靴の補装具としての役割 3) サイズの選定方法 4) ハイカットシューズの効果的利用 5) 室内履き（上履き）の検討	
	コラム 日本人の足の変化と市販の靴の実際	318
4	生活環境の全体調整	318
1)	環境が与える影響 2) 臥位の環境設定 3) 抱き方（抱っこ）の環境設定 4) 座位の環境設定 5) 移動の環境設定 6) 感覚・認知に対する環境設定 7) 家庭内での環境設定 8) 幼稚園・保育園・学校での合理的配慮とインクルーシブ教育	
	コラム 育児グッズ、大人の便利は子どもの過剰支援?!	327
4	主な施設と多職種連携・支援制度	328
1	小児理学療法にかかわる支援制度	328
1)	社会保障制度 2) 具体的支援サービス	
2	小児理学療法に携わる理学療法士の働く場	330
1)	集中治療室 2) 障害児入所施設（医療型および福祉型） 3) 児童発達支援センター（医療型および福祉型） 4) 放課後等デイサービス（神経発達症児、重症心身障害児） 5) 特別支援学校（自立支援） 6) 訪問リハビリテーション 7) その他	
	コラム 障害児に対する入所・通所施設の変遷	332
	コラム 地域ごとに機能が異なる「療育センター」	332
	コラム SDGsの流れとインクルーシブ教育	334
3	ライフステージからみた社会的支援	336
4	多職種連携	337
1)	多職種連携の重要性 2) 多職種連携の際に留意すること	
	コラム 多職種連携の一例（通級指導教室の例）	338

5 学校保健	339
1 運動領域	丹野謙次 339
1) 概要 2) 発達的特徴 3) 運動器検診 4) 運動器検診時に留意すべき疾患 5) 理学療法士による介入	
2 精神領域	畠中良太 344
1) 精神保健の基本 2) 精神不調のケア	
6 障害児スポーツ	345
1 障害児（者）スポーツとは	345
2 障害児におけるスポーツの有用性	345
3 障害児スポーツにおける理学療法士のかかわり	346
4 障害児が参加可能なスポーツ	346
1) ボッチャ 2) 陸上競技 3) 水泳 4) 車いすバスケットボール 5) 電動車椅子サッカー 6) その他	
●索引	349

■正誤表・更新情報

<https://www.yodosha.co.jp/textbook/book/7071/index.html>

**■お問い合わせ**

<https://www.yodosha.co.jp/textbook/inquiry/index.html>



本書発行後に変更、更新、追加された情報や、訂正箇所のある場合は、上記のページ中ほどの「正誤表・更新情報」を隨時更新しあらせします。

本書に関するご意見・ご感想や、弊社の教科書に関するお問い合わせは上記のリンク先からお願いします。